

SG講演会④-1

日時 平成28年5月12日(木) 5校時(14:05~15:05) 前半

場所 丸亀高校 武道館(柔道場)

対象 丸亀高校 1年生279名、教員15名

講師 毛利 猛 氏(香川大学教育学部 教授)

講義 「教育分野から見た地方創生」

内容等

大学での研究は「人間を深く理解する」「実践的指導力を鍛える」などを目的として行われており、2年次よりコースに分かれて、より実践的で専門的な授業科目を履修することは、教育に興味ある生徒の教師を志す気持ちを強くしてくれたようである。

「少子高齢化と人口流出」の対策としては「子どもを産み育てやすい地域づくり」が、「グローバル化」の対策としては、外国人労働者の多い丸亀市であれば「ニューカマーの子どもたちへの日本語教育等での支援」が、「情報社会化」の対策



としては「ニューメディアとの付き合い方の指導」が考えられ、具体的な対策については、子育て支援制度や学童保育の充実、待機児童の解消に向けての地元丸亀市の取り組み等が参考にできることは、生徒に、これからの社会がどのような変化していくのかを見据え、その中で教育が果たすべき役割を考えることの必要性や、教育現場でのインタビューや学童保育などのボランティアを通して体験的に課題を理解していくことの大切さを理解させてくれたようである。

生徒の主な感想

- ・教育学部は地方創生にも目を向けて地域のすべきことや対策を研究していることが分かった。
- ・教育で人は育ち、その育った人が地方を創るので、教育はとても大事だと思う。
- ・教育が地方創生に大きくつながっていることが分かった。
- ・将来を担う子どもたちのためにも、教育制度を充実させることは大事だと思った。
- ・教育は、自分の経験をそのまま仕事に生かすことができるので興味深いと思った。
- ・子どもたち一人ひとりを育てることが地方創生につながると思った。
- ・私たちも含めこれから人材を育成することは大事だと思う。
- ・ニューカマーが丸亀に四国一多いことに驚いた。そして、身近な問題だと思った。
- ・ニューカマーがしっかりと勉強できる環境を整えれば、外国から人を呼ぶことができ、地方創生ができると思った。 ・地元に戻ってくることも大切だと思った。
- ・丸亀市にも教育に関する問題がたくさんあることが分かった。対策を考えてみたい。
- ・子どもをたくましく育て、人間関係を養うことが大事だということが分かった。
- ・若い人たちが帰ってきたいと思えるようにするために、魅力ある町づくりをしていかなければならないことが分かった。 ・子どもが育ちやすい環境を作ることが大切。
- ・子どもを安心して育てられる環境を設けるために、教育分野は大切なものだと思った。
- ・他の分野と比べて、政府を始めとする行政が大きく動いていると思った。
- ・グローバル化が進む中で、様々な人が共生できる社会を作ることが大切だと思った。
- ・自分の目で課題を見つけ、行動する中で、自分から関わることが大切だと分かった。
- ・子どもと接することで、新たな問題を発見できそうだと感じた。
- ・教育についてよく分かり、これからの地方創生に自分の使命を感じる事ができた。